

『中国社会』 デジタル化最新事情 ①

～中国で発達するネット出前事情～

◇ 中国のネット出前について

- ・ここ数年、上海市の街角では、派手なユニフォームを着用した人をよく見かけます。彼らは料理のオンライン配達代行サービス（以下、ネット出前）の配達員です。
- ・中国のネット出前は、中国語で外売（ワイマイ）と呼ばれ、利用者は専用のスマホアプリ経由で料理の注文から支払い、配達依頼まで完了することができます。
- ・日本のネット出前は、2016年にUber Eatsが参入し、コロナ禍をきっかけに市場規模が急拡大しました。一方、中国では2010年初頭には既にサービスが認知されており、今では料理に加え、スーパーの食料品や薬局の医薬品に至るまで様々な商品の配達を行っています。



- ① 電動バイクで上海市内を走るネット出前の配達員。
- ② オフィスビル内のネット出前の受取専用スペース。

◇ 成長著しい中国のネット出前市場

- ・中国のネット出前の市場規模は年々拡大を続けており、2020年の利用者数は4億人を突破し、実に中国国民の約3人に1人が利用しています。(参考:CNNIC 中国オンライン外売市場規模2020)
- ・上海では、コロナ禍によりマンションやオフィスビルに出前専用の受取棚が設置されたことで非対面での受け渡しが可能となったほか、スマホアプリ上で配達員の体温が確認できるなど、配達時の利用者と配達員間の感染防止が徹底されています。



- ③ ネット出前で注文した中国の麺料理。
- ④ スマホアプリ上の画面。
配達員の位置情報や体温の確認が可能。

- ・スマホを利用したキャッシュレス決済やネット出前など、リテール向けデジタル・ビジネスのイノベーションで世界をリードする中国社会のデジタル化からは、目が離せません。